

筑波大学ヒューマンバイオロジー学位プログラムは博士課程教育リーディングプログラムとして 2011 年度より発足した 5 年一貫制の博士課程プログラムです。ヒトが人らしく生きる社会の創造を先導できる国際的トップリーダー養成を目的としこれまでの大学院教育のイメージを超えた革新的で新しい試みが多数行われています。本プログラムの今をお伝えする HBP ニュースレター、プログラムのリアルな姿や履修生たちの様子をお伝えします。

## Appropriate Technology 適性技術教育 ～フィールドワーク in 東ティモール～



2012 年 9 月 17 日から 9 月 22 日にかけて、HBP 履修生の三浦さんと菊地さんは適性技術教育の授業の一環として、See-D Contest が主催する東ティモールでのフィールドワークに参加しました。See-D Contest は「必要なモノを必要とされる人に届ける」ことを目的とし、日本の技術力と途上国のニーズをつなげ途上国が抱える課題を解決する製品を企画・開発し、その成果を競い合うコンテストです。

See-D Contestの詳細はこちらから→ <http://see-d.jp/>

### HBP 選択必修科目: Appropriate technology

科目概要: 現地のニーズ、文化、環境、人などを考慮したうえで、現地の人に必要とされる最善の技術を創出する。それにより、これからの社会で必要とされる問題解決力、現場対応力、起業力を身につける。

担当: 入江賢児 (HBP)、梅澤陽明 (HBP&See-D)、陸 翔 (See-D)、遠藤 謙 (See-D)

### フィールドワークに参加した HBP 履修生のコメント (菊地琢哉)

渡航以前は、ティモール人の子供たちが裸足である写真を見て、彼らは貧しくてかわいそうな人々であり、何が彼らの生活を助けるプロダクトを作りたいと思っていました。しかし実際現地の子供達と触れ合ってみると、彼らのエネルギーに圧倒されました。現地の子供達と一緒にサッカーをしました。地面は太陽光で熱せられ、石だらけでなくガラスの破片なども落ちていましたが、彼らは全く気にしていないようでした。ほぼ自給自足で生活する現地の方々の、自然とともにたくましく生きる姿を見ることができました。

美しい海にも開発の影響が。



現地の学校の視察

先進国に生きる我々の価値観で、現地の生活レベルを向上させるためのプロダクトを無償で与えても、それが壊れてしまったり、結局は森の中海の中に放り投げられる宿命にあるということを目の当たりにしました。現段階でも、現地の住民の方々は先進国で暮らす私たち以上に日々を幸せそうに過ごしており、無為に工場やビルを建て支援をすることには疑問を覚えました。同時に様々な方へのインタビューを行いました。医療や公衆衛生に関する支援を行う現地 NGO、AFMET の日本人スタッフの方から伺った、「開発に疑問を感じる」というご意見が印象的でした。短期的な生活レベルの向上だけを目的とするのではなく、現地の生活、文化、価値観を理解し、かけがえのない自然を壊すことのないよう、広い視野を持って取り組まなければならないと考えさせられました。



現地のこどもたちと



現地の方へのインタビュー



畑まで片道 2 時間の道のり

東ティモール訪問のNHK放送 <http://www.nhk.or.jp/sakidori/backnumber/121202.html>

## See-D Contest 2012 最終審査報告会 (2012/12/9)

適性技術教育の一環として、HBP の履修生 3 名と教員 1 名が See-D Contest に参加し、約半年に渡る長期間のプロジェクト成果を発表する審査報告会が 12 月 9 日、政策研究大学院大学にて行われました。

最終審査報告会の様子はこちら→ <http://www.facebook.com/seedcontest>



全 9 チームが参加し、tranSMS チーム (HBP 三浦がメンバー) が最優秀賞と会場賞、4-d チーム (HBP 竹村がメンバー) と TJM チーム (HBP 菊地がメンバー) がどちらも先輩賞に輝き、結果として全ての HBP 参加者が表彰されました。各チームの提案は以下の通り。

- ー tranSMS チーム  
: スマートフォンと SMS を用いた  
輸送支援システム tranSMS
- ー 4-d チーム  
: 全ての人にあたたかさをとどける  
移動式ホットシャワー Poppo
- ー TJM チーム  
: 農作業を効率化する  
手押し式水やりポンプ

4-d チーム報告会終了後



<http://www.facebook.com/team.four.d>

### 最優秀賞に輝いた TranSMS チームから (三浦悠樹)

私たちは東ティモールへの現地調査を通して、「物流ハンディキャップ」という問題に着目しました。東ティモールでは物流コストが高く、首都から離れた辺境に住む貧しい人ほど、その影響を受けています。一見、小さなチームでは簡単には解決できないように見えるこの問題に対して、私たちは「スマートフォンと SMS を用いた輸送支援システム (tranSMS)」を考案しました (詳しくは下記 Facebook ページを参照)。

コンテストにおいては、多くの審査員と参加者の方々が評価を頂き最優秀賞・会場賞という 2 つの賞を受賞できたことは大変嬉しく思うと同時に、自分たちのアイデアへの自信に繋がりました。See-D contest 2012 は終了しましたが、現在 tranSMS は東ティモールで実際に事業を行うための資金調達など準備を着々と進めており、今年中に現地でも事業をスタートする予定です。個人的には、産官学、様々なフィールドで活躍している方々に出会いたくさん刺激を受け、色々と学ばせて頂きました。コンテストに向けては単なるアイデアだけではなく、実際の事業導入までのプロセスをチームで考える中で、持続可能なビジネスモデルの考え方も学ぶことが出来ました。この半年間で大きな成長を実感できました。

<http://www.facebook.com/transmsatreinoirnihonbashi>

